

## △討論要旨△

東北大学大学院 武田共治

東北地区研究会では、岩本会員から、福島県靈山町における農用地利用促進事業の展開と農民の対応について、また不破会員から、福島県北会津村の事例をもとに、米の生産調整対策の展開と農民の対応について、それぞれ報告がなされた。

討論は両報告を一括して行なわれたが、その基本線は次の通りである。すなわち、主要な論点は、農地流動化政策や水田利用再編対策がいわゆる地域農政として展開されていることの意味は何か、および、こうした諸政策をうけとめる中心となる農民はいかなる性格の農民であるのか、という点におかれた。こうして農政とその浸透過程との関わりにおいて、村研の共通課題である、下からの農村自治にあたづく農村計画の、とりわけ主体の問題にアプローチしようとするものであったといえよう。以下、こうした文脈から、討論を紹介する。

まず司会の大川会員から、靈山町の事例に関して、階層」との動きはどうか、との質問がなされた。これに対し岩本会員は、集落内に対立を起こさないように集落ぐるみでとりくまれていて、これは、むしろモデル地区に指定された集落とされない集落との間に対立が生じていると述べられた。また不破会員からは、北会津村では市街化区域との関連で、若松市からの入作という形で農地流

動化が進んでいるが、靈山町のように組織的にはなされていないことが述べられた。靈山町の事例は、その推進体制と流動化された農地の多さなどで注目されるが、その点で細谷会員は、ヤミがすべて表にでているという、めずらしい事例であると指摘された。

ところで集落ぐるみという点に地域農政の反映を読みとることができるが、その内実に立ち入って、不破会員は、靈山町の農地流動化の展開の条件として、集落レベルでの世話役の存在が大きな役割をはたしていること、および農業委員会の中心人物がかつて社会教育に従事していたことも、地域農政の発想を実行する上で関わっていることが指摘された。また、武田会員から、農地流動化の範囲が問われたが、岩本会員は集落内が最も多くと述べた。そこで武田会員から、集落内が多いことと、いわゆる集落の土地保全機能との関わりが問われた。その点で岩本会員は、集落レベルでの推進員がとりまとめるので集落内が多いことになるが、それは互酬的性格のものであることを指摘された。また、地域農政の性格と関わって、大川会員から、行政は政策を農民のものへとうまくすりかえていくようと思うが、その点で、不満分子との調整をどのようにしていくかとの質問がなされた。これに対し岩本会員は、金でつっていると述べられた。そこで佐藤(勉)会員から、町の計画にのらない部落はどうなっているのか、との質問がなされたが、岩本会員は、事実上切り捨てであること、また、のつた部落とのらない部落という対応の背後には政治的状況の問題が関わっていることを指摘された。その点と関わって不破会員は、のりおくれた部落とそうでない部落の

ちがいは、行政からみて、とつかりのよい人間がいたかどうかといふことがあると指摘された。

このように議論は、地域農政とそれをうけとめる集落レベルでのリーダー層の問題へと展開されてきたが、そうしたリーダー層の把握とも関わって、大川会員から、転作時代になってくると、旧来のような水田経営面積による分解論の議論はむずかしくなつてくるのではないか、との問題提起がなされた。その点で岩本会員は、靈山町の場合はきゅううり五反あれば充分であり、階層性は問題とならないと述べられた。また細谷会員は庄内の事例をもとに、水田単作地帯の場合には、一町未満が委託側、二町が迷うており、二町以上の大半が受託志向であり、一町から二町が機械の共同利用、二町以上は個別の機械化一貫体系というように分かれている。ここに転作がからみ、一部に積極的な農家もでてきていると指摘された。そこで小林会員から、庄内の林崎部落における、田畠輪換大型実証展示園の事例が話された。また武田会員から、北会津村真渡部落の事例では、転作への対応のちがいが経営耕地規模で区分できず、家族労働力や農外市場、あるいは畑作との関連、さらに経営志向との関わりがあるとの指摘がなされた。そこで大川会員から、階層分解論と転作志向をどう整理するのか、何のメルクマールをとすればうまく区分できるのか、との問題提起がなされた。この点ど武田会員は、経営の内容が問題であり、そのくみあわせにより異なつた経営類型へ分化するといふことが分解論の問題となると述べた。その点で細谷会員は庄内の事例をもとに、一町以上層にバラついている酪農、あるいは

ハウス農家は、以前はプラスアルファとして多角経営であったが現在では一つのものに整理している。そうした特殊志向をもつた経営への分化がみられ、これは経営面積では切れないと指摘された。また岩本会員は、靈山町を念頭におくと総生産金額と経費を考慮しないと切れないのではないか、と述べられた。さらに不破会員は、北会津においても、『バナナとバイナップル以外はなんでもつくる』という状況から、主産地形成の方向がでてきていること、また分解論との関わりでは、一町未満層が代理転作や委託転作に出しており、今後この層が上層に及ぶことも考えられることを指摘された。

こうした階層区分とも関わって問題とされたことは、転作や農地流動化を通して新しい生産力主体の形成を展望しうるか、という点であつた。この点で大川会員から、北会津村の転作では特定作物から一般作物への転換がみられるが、これは一般的傾向とみてよいのか、との質問がなされた。それに対し不破会員は、その条件としては①村の産業課が収益性の高いものを奨励し、販路は農協、技術指導は改良普及所という体制ができていること、②もともと菜園場であり、技術的土壤があつたこと、③勤勉であり、とくに若い層が新しいものにとりこんでいる、という点をあげ、福島県全体の傾向とはいえないこと、さらに、とくに三町前後層にそうした動きがあると指摘された。また細谷会員は、奨励金めあてが一般的であると指摘された。いづれにしても、北会津村の事例では、転作を契機に畑作への経営構造の転換を図つてこうとする農家は極めて少ないといえよう。また不破会員から、靈山町の農地流動化は相互救済的なも

のであり、中核農家育成や生産基盤づくりには結びついていないのではないかとの指摘がなされた。その点と関わって鳩田会員は、初年度には三〇人の移動に二〇〇人も関わっている状況に注意を促した。さらに岩本会員は同一農家に土地貸借の重複があることを指摘し、靈山町の事例は互酬的なものである点が確認された。

ところで農政のいう中核農家育成からすると「兼農家が問題となる」。その点で大川会員から、靈山町と北会津村のいずれも「兼農家の割合が低いのは、労働市場との関係からか、それとも農業生産への魅力からか」との質問がなされた。靈山町については岩本会員から、「畑作の場合少ない面積でもやってゆけるし、労働力関係の問題からも外に出でゆけない状況が、北会津村については不破会員から、若松市の労働力市場がせまいこと、畑作や果樹との関わりで労働的中核農家育成論からすると「兼農家創出策が進められるがそうした動きはどうか」と問うた。そこで岩本会員は、靈山町は集落ぐるみであり、ともかくみんなで農業をやってゆこうということになつていること、また、兼業従事者も含めてソフトボールのチームを作られ、それが集落そのものを維持するために真面目に考えられていることを説明された。また不破会員は、七〇年代からの農政には、実質的には脱農の方向を進めながらも表面的には部落でとどめておく、という発想があるのでないかと指摘された。

ここで不破会員から、どのような農民が今後のむら社会のリーダーとなりうるのであろうか、との問題提起がなされた。不破会員も

指摘されたように、それは従来のように階層でいえる段階ではないが、農村自治をうけつぐ農村計画の主体の問題につながる重要な論点といえよう。その点で大川会員は、従来のリーダーと転作時代のリーダーの異同の問題として提起された。それらをうけて細谷会員は、上からの行政浸透とその出し方、および下からのうけとめ方、それらを結ぶバイブルとしてのリーダー、といった問題をめぐっては、農民はまだされているだけという評価があるが、実際はわりきれないこと、また、とりわけ構造改善事業のなされた七〇年代において農民の性格変化があり、単に補助金めあてではなく経営の問題を考える、何かやりたいという農民がでてきているのではないか、それを見抜いて地域農政は農民の創意工夫を強調しており、性格変化している農民の側も行政の意図を知りつつそれにのろうとする、という、地域農政と農民の対応への見方を示された。この細谷会員の指摘が討論のまとめを示すものといつてよい。

しかし事例の中では、「新しい経営を考える農民」が明確な層ないし類型として析出されうるまでに現実が至っていないようと思われる。その点と関わって不破会員から、北会津村では野菜のふりうりの多い段階であることが指摘されている。

以上が討論の主要な流れである。そのほか出された問題としては、土地利用組織と生産組織の関連（細谷会員）、後継者問題（佐藤会員）、標準小作料と実態との関連（鳩田会員）、土地貸借は借り手市場か否か（細谷会員）などがある。詳しくふれえなかつたことをおわびしたい。

討論をふり返ると、七〇年代の諸条件を通して生じつつある新しい生産力担当農民の性格規定、それとむら社会のリーダーとの関連などにおいて、いまだ検討が不充分であり、農村計画の問題はまだまだ遠いと感じられた。大川会員も指摘されたように、今後しばらくたつてみないとわからないという問題自体のむずかしさもあると思われた。